

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491000111	事業の開始年月日	平成19年4月1日
		指定年月日	平成19年4月1日
法人名	ミモザ株式会社		
事業所名	ミモザ戸塚		
所在地	(〒244-0003) 神奈川県横浜市戸塚区戸塚町167-29		
サービス種別 定員等	☒ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	25 名
		通い定員	15 名
		宿泊定員	5 名
	☐ 認知症対応型共同生活介護	定員 計	名
		ユニット数	ユニット
自己評価作成日	平成25年11月20日	評価結果 市町村受理日	平成26年1月20日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小規模多機能型サービスのメリットを、大いに発揮している。通いを中心に、お泊りを入れて馴染みの関係作りをしている。認知症の介護に力を入れており、事例研究や発表をしてスキルアップを図っている。スタッフが明るく離職する人がいない。チームワークが良く、優しい利用者様本位の介護が出来ている。毎月1度イベントの実施を企画し余暇活動の充実を目指している。定期的なドライバー面談を実施し、安全運転の強化に取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成25年12月10日	評価機関 評価決定日	平成26年1月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

＜事業所の優れている点＞ ◇利用者の立場に立ったサービスの実施 ・管理者を始め送迎スタッフは、連絡帳に加え、家族との対話を重視して自宅での介護情報の把握に努め、家族の介護負担の軽減に配慮し、通いを中心に、適宜泊まりと訪問を組み合わせて支援している。 ・大半の職員は開所当時から勤務しており、明るく振舞い、コミュニケーションに注意して、利用者のリズムに合わせて利用者の立場に立ったケアに取り組んでいる。 ＜事業所が工夫している点＞ ◇年度ごとに重点目標を決め、毎朝の30分ミーティングで申し送りに落ち度がないように職員間で話し合い確認して実行につなげている。 ◇ミモザ全体の方針として、送迎時の利用者の安全性を重視して、3か月ごとに管理者はドライバーとの個別面談で安全運転について意見交換をしている。 ◇職員の「日替わりのリーダー制」を継続し、その日のリーダーに全職員が協力し合い、より良い職場環境の構築に努めている。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	ミモザ戸塚
ユニット名	-

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
		○	3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	戸塚センター理念である「笑顔で家庭的な介護を目指します」はスタッフ全員が唱和することが出来る。理念を常に念頭に置き実践につなげている。	・法人の理念と事業所のスローガンを事務室に掲げ、利用者が笑顔で安心して過ごせるよう支援している。 ・職員は、ミーティングで日々の支援状況を確認し、理念の実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	イベントを開催し、地域に呼びかけられている。戸塚小学校のさくら福祉委員の生徒たちが来訪してくれる。町内の行事にも参加できるようにしている。	・地元の神社の祭りや小学校の運動会などに利用者と参加し、地域の一員として交流している。 ・利用者は近くの小学生や幼稚園児の定期的な来訪やボランティアのハーモニカや歌での交流を楽しみにしている。	・今後更に自治会への加入を働きかけ、地域との関係が一層深まることが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年1度の認知症フォーラムで小規模多機能の説明や認知症についての説明の機会がある場に参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故状況や、個別対応の実例など報告している。毎回課題を取り上げ、報告しアドバイスをいただき、課題解決に向け取り組みを行う。	・会議は2か月ごとに開催し、事業所の取り組み状況に関し、意見交換をしている。 ・地域代表から、事業所をもっと知ってもらおうよう、老人会で説明してもらいたいとの要請があり、検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡会への参加、ケアマネットの参加、医療連携への参加しお互いに連携を取るようにしている。	・管理者は区の担当者と連絡をとり、利用者の支援方法や家族への対応を相談して、市の小規模多機能事業所連絡会に参加している。 ・地域包括支援センターから入所者の紹介があり、区の小規模多機能事業所と連携している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	帰宅願望の利用者様に対しても、スタッフの見守り強化、気持ちをそらす工夫等を行い、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	・事務所に身体拘束排除宣言を掲示し、定期的に研修をしてミーティングで話し合い、拘束をしないケアを徹底している。 ・玄関は日中鍵を掛けず、施錠は夜間のみである。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を行っている。来所時や入浴時に身体面の観察を行い、表情もいつもと違うときはスタッフより報告があがる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	不足する部分がある為、今後勉強会等に参加し情報の収集をしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、又は改正等の際は本人家族と十分話し合い、理解、納得したうえでやっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を玄関に設置している。送迎時やご連絡を頂いた際に意見や要望を聴取するよう努力している。	・送迎時の利用者や家族の会話から、要望や意向を把握して、日々のミーティングで話し合って運営に反映している。 ・急な泊まりへの要望にも柔軟に対応している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝のミーティングで職員間の意見交換をしている。何かあるときは其の都度話し合う。個別に話しを聞くこともある。業務改善会議等の機会も設けている。	・ 職員の提案で設置した「改善会議」で、意見を出しあっている。誤薬をなくすため、利用者ごとに一人の担当職員を決めて、それぞれ責任を持つ仕組みにした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に対しての挨拶や日々の感謝の気持ちを表にしたり、ねぎらいの言葉かけをするよう心がけている。向上心がもてるよう、褒めたり励ましたりしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材教育に力を入れている当社は総合研修所があり、スタッフの力量に合わせた研修を選び、参加を勧めている。外部研修の情報提供もしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他事業所の関係者とも交流をもつよう努力している。情報交換をし良いところを吸収し、サービスの向上につなげている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回の段階で本人の要望等を聞き出し、それに向けて支援していくことを伝えながら関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の段階で家族の要望、困っていることを聞き、それに向けて支援していくことを伝え、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期において今、なにが必要なサービスかを見極め、様々な分野も考慮しながら対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意分野を尊重し、潜在意識をうまくすくい出せるよう、教えてもらう姿勢を常に表現している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族においても、本人にとっても無くてはならない存在を位置づけにして介護にも積極的に参加して、共に支え合っている事を伝える。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との触れ合いを大事にし、送迎時の乗り降り時、本人のいつもの場所、人とも挨拶や声かけを行なっている。	・送迎時や日々の生活の中で利用者の馴染みの人や場所を聞き出すように努めている。 ・送迎時には近所の方と挨拶や立ち話をし、行きつけの美容院・馴染みの店への買い物に同行したりし、従来のつながりを大切にしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の個性を見極め、利用者同士が話しが出来るよう席順や位置に気を配っている。全体でレクリエーションを行ったりコミュニケーションをとっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても連絡を取り、相談や状況把握に努め、本人家族にとって最良であるため支援している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々、対応しながら本人の希望、意向を把握している。そのことが困難な場合は本人にとって何が一番良いかを常に考慮しながら支援している。	・アセスメントの結果や日々の会話の中から、利用者の思いや意向を把握し、ミーティングで職員間で共有して支援している。 ・把握が困難な方は家族やベテラン職員が対応してよく見守り、希望や意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでどのような暮らしをしてきたのか本人、家族、ケアマネに聞きながら生活歴を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の暮らし方、出来る事出来ない事、現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成するにあたり本人、家族関係者と話し合い、相談しながら意見交換している。現状に合った計画を作成している。	・利用開始時に、管理者・ケアマネージャー・看護師が利用者と家族の意見を聞き、時には医師の意見も入れて介護計画を作成している。 ・計画は日常生活を観察し、通常3か月ごとに見直し、必要があれば随時見直し、修正している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアを実践した時の気づき、発見、工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有し、計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人家族の状況の変化に応じた対応を行なっている。利用日でない日も臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察の見回り、消防署より年二回の防災訓練実施、保育園、小学校との交流も持っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携病院との連絡会出席、必要に応じてかかりつけ医の受診同行も行なうようにしている。医師にミモザでの状況を伝えられる機会をなるべく作るようにしている。	・利用者全員がかかりつけ医で受診し、家族が付き添い通院している。家族の付き添いが困難なときは、職員が同行している。 ・看護師が週2日、利用者の健康状態をチェックしており、提携病院との連絡会には管理者が出席し、情報交換している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が業務のときの気づきを報告していただいている。こちらからの気づきも看護師に報告し、指示を仰ぐ。情報をスタッフもお互いに提供し合い、適切な処置や受診につなげる事が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、状態把握をし、情報交換に努めている。早期退院に向けてもケースワーカーとの連絡を取りあっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについて家族と常に現状把握に努めている。今後の方針や病院との連携もチームとして支援していくことを伝えている。	・重度化したときは、ケースごとに管理者・家族・医師・看護師と相談して対応している。 ・今後は家族の意思を尊重し、ターミナルケアを視野に入れた介護サービスに取り組む方針である。	・今後、重度化や終末期の対応についての方針を文書化し、職員への説明と研修を行い、ターミナルケアに向けた介護サービスを具体化していくことが望まれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に備えて研修を行ない応急法、訓練を全スタッフが身につけている。又忘れない様に定期的に応急処置の方法を学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害等の災害時に避難出来る様避難訓練を年二回行なっている。全スタッフが二回のうち必ず一回は参加出来る様調整している。	・防災責任者を決め、年2回消防署立会いで夜間を想定した消防訓練を行っている。 ・非常用の飲料水・食料・防災グッズは3日分備蓄している。 ・災害時の地域との協力体制構築は今後の課題である。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様という意識を持ち、常に人格を尊重し接遇についての研修も行なっている。言葉遣いや態度も見直す機会を持つ様指導している。	・職員は接遇研修を受け、①身だしなみ ②挨拶 ③正しい言葉使いを念頭に、人格の尊重とプライバシーの確保に努めている。 ・利用者への言葉使いについて、管理者の指導のほかに、職員同士が話し合って改善している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の言葉にも注意を払い、思いや希望を表現できる様うながしたり、雰囲気作りにも気を使っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人や家族の思いや希望を受け止め、一日の流れをその人のペースに合わせてスタッフや家族と話し合い決定し、承認して進めていく。その日の心身状況に合わせてその方に合わせた個々の対応をしていきます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々に行きつけの理、美容室に行ける人は家族対応で、その他の人はスタッフに美容師がいるのでカット、髭剃り、毛染め等を行なっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	美味しそうに見える様見た目、味付け、食べやすさ、献立を考え一人ひとりの好みに合うようにしている。又、食前にテーブルを拭いて頂いたり、食後に下膳のお手伝いなどを一緒に行なっている。	・業者からの食材を、専任職員が利用者好みに調理し、提供している。 ・職員は利用者と一緒に食事をし、食材や味付けなどを確かめ、改善につなげている。 ・クリスマスや正月などの行事食も、事業所独自で調理している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理専門のスタッフによりバランスのとれた食事を提供している。水分量も一日〇〇ccと記入したり、状態に応じて食事形態を変えたり個別に対応している。水分制御の人や塩分制御の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人の歯磨きを促し、介助が必要な方には個別対応してその人の力に応じた口腔ケアを行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間毎の排泄の誘導（来所時・レク後・昼食前・後・入浴前・帰宅前）個々の習慣や家族の要望に応じた対応をしている。本人態度や様子を観察して介助に入らせて頂いたり、なるべく手を出さずに自立に向けた支援を行なっている。	・一人ひとりの排泄パターンを把握し、様子を見て、プライバシーに配慮した声かけや誘導を心がけ、トイレでの自立を支援している。 ・排泄表はパット・トイレ・便の状態を2時間毎に記入し、利用者に応じた自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防として水分や食事の内容に工夫したりリズム体操等取り入れスムーズな便通を促す様支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は午前からとなっているが、個人のペースと希望を取り入れている。拒否のある方は時間をかけて無理は避けるようにしていき、本人の状態と納得されてからお誘いすると抵抗がなくなった事例がある。	・浴室の着脱スペースは床暖房で、仕切りカーテンも付けてある。 ・午前中に入浴し、週2回は入浴している。 ・入浴嫌いの利用者には無理なく誘導し、菖蒲湯なども楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息は昼食後にとって頂いているが、熟睡される方もいらっしゃる。昼夜逆転しない様個々の生活習慣や睡眠状態をその都度家族や本人から聞き取り休息を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については、内服している処方箋を個人ファイルに添付し、目的、副作用について理解できる様説明すると共に、服薬支援、個別包装も行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者や家族から趣味や生活歴の情報を収集して一人一人の才能や技術を呼び起こし、自信を付けられる様に支援している。将棋やオセロ、パワリハなどが目的で来られている方もいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の変化や四季折々の環境を体験できる様外出支援を行なっている。四月には柏尾川にお花見をし、おやつと飲み物を持参して車椅子の方も全員参加する事が出来ました。又、習い事の送り出しの支援もしている。	・天気の良い日は、近くの柏尾川の遊歩道を散歩し、季節の移り変わりを楽しんでいる。 ・「茶道、コーラス」などの習い事の送迎のほかに、同窓会の案内状発送や会場への送迎を支援している。 ・家族同伴での遠足やレストランでの食事会なども検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が財布を持参している方もいる。家族も承認している為、近所への買い物や外出時に使う楽しみ、選ぶ喜びを得て頂いている。金銭管理の能力にも合わせた支援をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参されている利用者様に、番号を押したり一緒に取り次いだりして、相手との交流の手助けをしている。誕生日には、遠方のお孫さんからの手紙や花が届いたこともある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	知人や友人、家族等が突然気兼ねなく訪問したり出来るような開放的な環境づくりに努めている。共用の空間は毎日掃除機、床拭き、消毒を行っている。観葉植物や季節の花など飾っている。	・居間は広く明るく床暖房完備で、角型と丸型の大型テーブルが配置され、自由に着席し寛ろいでいる。 ・壁面に絵画や利用者の作品を掲げるほか季節の演出も工夫している。 ・トイレ、浴室、居室はプライバシーを配慮しつつ、使い勝手が良くできている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の要望に合わせた空間づくりを行なっている。隣接されたスペースについたてを立て図書コーナーやドリンクコーナーを設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室には本人が持参される物が置かれている。使い慣れた物、安心出来る物を自由に持ちこめる様支援している。	・居室はエアコン、カーテン、ベッド、チェストと布張りのイスを備えて、居心地よく過ごせるよう配慮している。 ・使い慣れた物を持ち込み、居室で寛げるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	パワリハ、レクレーション、体操、習字、絵手紙、それぞれが好みに合わせて参加できる様声かけ等を行っている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

ミモザ戸塚

作成日

平成26年1月15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		訪問サービスにおける内容の充実。現在訪問サービスの内容が限られてしまう。様々なニーズがある。	訪問サービスの充実をし、様々なニーズに応えられるようにしたい。ご利用者の更なる支援につなげたい。	他の事業所では、どんな支援をしているのか、勉強会や研修に参加し情報の収集をする。	1 年
2		大規模震災などの備えや取り組みの強化。	大規模震災が起きたときに迅速な対応ができるように。	大規模震災に備え、備蓄の管理や徹底を行う。研修を開き、職員へ緊急時の対応を周知させる。	半年
3		地域との関係をもっと深めていきたい。	地域の方々とも、顔見知りの関係を築けるようになり、地域密着サービスとしての幅を広げていきたい。	自治会加入への働きかけや、地域行事への積極的な参加をしていきたい。	1 年
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。